

特別支援学級の授業づくりを支える教育センターにおける支援の在り方
(1年次)

島根県教育センター
教育相談スタッフ 特別支援教育セクション 共同研究

目 次

【要旨】	1
1. 研究の背景	1
2. 研究の目的	2
3. 研究の計画	2
4. 研究の方法	2
5. 研究の内容	2
(1) 特学担任の現状の把握と分析	2
① 小・中学校特別支援学級、通級指導教室新任担当教員研修事前アンケート結果から	2
② 特別支援学級担任3年目研修事前アンケート結果・ステップアップシートから	4
③ 研修講師振り返りアンケートや各教育事務所指導主事聞き取り等から	6
(2) 授業づくりの課題への対応策の検討	7
(3) 作成した各資料について	10
① 授業づくりシート	10
② 各教科（生、国、算・数）の段階表	14
③ 自立活動内容整理表の補助資料	18
6. 成果と今後の方向性	21
(1) 1年次の取組を終えての成果と課題	21
(2) 2年次の取組に向けて	22
7. おわりに	23
【引用文献】【参考文献】	23

特別支援学級の授業づくりを支える教育センターにおける支援の在り方（1年次）

島根県教育センター 教育相談スタッフ特別支援教育セクション 共同研究

【 要 旨 】

本研究は、特別支援学級担任が授業づくりについて、在籍する児童生徒に合わせて情報を活用し、主体的に考えながら授業を充実させていくことを目的とし、教育センターとしてどのような働きかけができるかを探っていく。研究期間を2年間とし、1年次は主に、アンケート調査や関係機関からの情報をもとに、特別支援学級の現状の把握と分析、授業づくりに関する課題への対応策の検討、資料の作成を行った。資料は、授業づくりの流れやポイントを意識できるもの考えた。また、具体的な活動のヒントを示すことで、理論と実際の授業をつなげやすくなるようにした。2年次は、資料の完成、試行による有効性の検証、改善を行う。作成した資料を活用することで特別支援学級担任と他の教職員がつながり、児童生徒の実態に合った授業づくりを行うことができるよう取り組んでいく。

【キーワード：特別支援学級 授業づくり 実態把握 活動のヒント 具体例】

1. 研究の背景

児童生徒の学校生活において、中心となるものは毎回の授業である。教師は、毎日、授業づくりに取り組んでいるが、実際には、児童生徒の実態は一人一人異なるため、教師が事前に考えていたような授業ができないことがある。

特別支援学級における授業づくりも同様で、児童生徒の様々な実態に応じた授業づくりを行っているが、支援方法には定まったものはない。これは、特別支援学級担任（以下、「特学担任」）の経験年数にかかわらず難しさがある。さらに、校内に特別支援学級が一つしかないなどの場合は、授業づくりについて相談することができにくいいため、児童生徒一人一人に応じた目標や指導内容の決定、学習評価を十分に行いにくいことがある。このことが、特学担任の授業づくりへの悩みにつながったり、または、逆に自分の授業に対して十分に振り返りにくい状況につながったりすることがある。

島根県教育センター（以下、「当センター」）では、特学担任の職務研修の受講対象を1年目、3年目、5～7年目とし、研修内容に系統性をもたせながら、継続した研修を行えるようにしている。また、その研修の中で受講者のニーズに対応できる内容を設定し、大切な情報を伝えることと合わせて、当センターのホームページの資料を充実させ、いつでもどこでも誰でも必要な情報を得ることができるように環境を整えている。

このように、授業づくりについての情報提供はこれまでも行っていたが、特別支援学級に在籍する児童生徒の実態は様々であり、提供した情報がどの児童生徒にもそのまま使えるわけではない。このことから、特学担任の授業づくりを支えていくためには、担任する学級の児童生徒に合わせて情報を活用しながら「自ら考えて解決していく」力をつけていくような支援が必要である。

そこで、今年度から、特学担任の授業づくりの現状と課題について、十分に把握を行い、その

課題に応じた具体的な対応策を考えていき、特学担任が主体的に授業づくりを考えて進めていくためにどのようなセンターの働きかけが有効なのか具体的な方策を探っていきたい。

2. 研究の目的

特別支援学級の授業づくりの視点を整理し、特学担任を支えるための教育センターの支援の在り方を検討し、具体的な方策を探っていく。

3. 研究の計画

【1年次(本年度)】

- 特学担任の現状の把握と分析
- 授業づくりに関する課題への対応策の検討、実施
- 2年次の方向性の決定

【2年次】

- 資料の試案の完成
- モニターによる検証と改善
- 情報の周知とまとめ

4. 研究の方法

- (1) これまでの特別支援学級に関する研修受講者のアンケート等の分析や各教育事務所指導主事の聞き取り等を行い、特学担任の実態を把握する。
- (2) 特学担任の授業づくりにおける課題を明確にして、その支援の内容を検討する。
- (3) 2年次の方向性と研究内容を決定する。

5. 研究の内容

(1) 特学担任の現状の把握と分析

県内の特学担任の授業づくりにおける現状について、「①小・中学校特別支援学級、通級指導教室新任担当教員研修事前アンケート(図1)」「②特別支援学級担任3年目研修事前アンケート(図2)、ステップアップシート(図3)」「③研修講師振り返りアンケートや各教育事務所指導主事の聞き取り等」から把握し、分析を行った。

①小・中学校特別支援学級、通級指導教室新任担当教員研修事前アンケート結果から

本研修は、初めて特別支援学級や通級指導教室を担当する教員が受講する研修である。令和3年度、令和2年度実施の事前アンケート(4月実施)の中から、『特別支援学級担任、通級指導教室担任にな

Fax送信票
(送信日: 年 月 日)
「小・中学校特別支援学級、通級指導教室新任担当教員研修第1回」事前アンケート

鳥取県教育センター 教育相談スタッフ
特別支援教育セクション 土井史 まで
(Fax 0852-22-6761)
※ 添削は不要

学校名() 学校・氏名()

◎以下の問い(Q)にOか、また空欄にてご回答ください。

(Q1) 1または2のどちらですか。【 】には、現在の担当児童生徒数を記入してください。
1: 特別支援学級担任である。【 人】 2: 通級指導教室担任である。【 人】

(Q2) 上記で「1」を選んだ人は、障がい種を選んでください。
1: 弱視 2: 難聴 3: 知的障がい
4: 肢体不自由 5: 病弱・身体虚弱 6: 自閉症・情緒障がい
7: 医内学級

(Q3) 新着課程の状況はどちらですか?
1: 知的障がい特別支援学校の新着課程を範疇に基に小・中学校(中学校)に基づく新着課程を構成している。(該当学年の学習内容を指導している。)
2: 知的障がい特別支援学校の新着課程を参考として新着課程を構成している。(各教科等を合わせた指導を行っている。)

(Q4) あなたの教員経験年数(通算で教えてください)は、どれですか。
1: 1年目 2: 2~5年未満 3: 5年~10年未満
4: 10年~20年未満 5: 20年以上

(Q5) 特別支援学級担任、通級指導教室担任となって特に不安を感じていることは何ですか。下記より3つを選んでください。
1: 新着課程の構成 2: 児童生徒の実態把握 3: 学級経営、教室経営
4: 児童生徒と教師のかわり 5: 学習指導・授業づくり 6: 保護者との連携
7: 教室環境、学習環境 8: 障がいの特性の理解 9: 個別の指導計画の作成
10: その他()

(Q6) 学習指導や授業づくりについての課題を具体的に記入してください。(困っていること、異なっていること...) また、講師に聞きたいことがあれば記入してください。

(Q7) 講義では、新着課程に即した分科会とします。該当の場所には○をつけてください。
受講している児童生徒の教育課程の状況で、2のいずれかが1つを選択してください。
※原則、上記質問(Q2)で1を選んだ場合は「1」、2を選んだ場合は「2」となります。
1 A分科会(該当学年の学習内容を指導している。)
2 B分科会(「○○タイム」など生活単元学習や作業学習等を行っている。)
3 C分科会(通級指導教室担任はごめんです)
※なお、質問事項で不明な点があれば、お問い合わせください。(0852-22-5870)
4月14日(水)までに送信をお願いします。

図1 事前アンケート

って特に不安を感じていることは何ですか。(3つ以内選択)』の項目と記述について抜粋し、以下にまとめた。(表1、表2)

表1 小・中学校特別支援学級、通級指導教室新任担当教員研修事前アンケート集計表

令和3年度 (%) (81人中)

学習指導・授業づくり	個別の指導計画の作成	学級経営、教室経営	障がいの特性の理解	教育課程の編成	児童生徒と教師の関わり	児童生徒の実態把握	保護者との連携	教室環境、学習環境	その他
74	37	37	35	27	25	19	18	16	2

令和2年度 (%) (90人中)

学習指導・授業づくり	個別の指導計画の作成	障がいの特性の理解	教育課程の編成	児童生徒と教師の関わり	保護者との連携	学級経営・教室経営	児童生徒の実態把握	教室環境、学習環境	その他
82	37	32	32	27	24	23	20	10	4

表2 令和3年度『不安を感じていること』記述内容と人数(人/81人)

自立活動(具体的事例、指導計画の作成、学習の進め方、評価)	16
複数在籍(実態差のある)学級の学習指導、わたり(特に国・算について)	13
どのように授業づくりを行っているのか(意欲付け、ペース、45分の組み立て方)	13
実態把握、めあての設定、評価	9
生活単元学習(具体的事例)	4
子どもとの関係づくり	4
何もわからないから全て教えてほしい	3
単元の選び方、教科の指導、自己理解、理解学習、進学・進級に向けて、個別の指導計画	各2
一人学級の学級経営、教材・教具・アプリ、交流学級、時間割の立て方、合同学習の進め方、教室や学習環境、学校での活動時間の確保、学級経営、コロナ対応	各1

○結果から分析する初めて特学担任となった教員の状況

担任になってまだ1カ月経っていない状況でのアンケート結果である。「学習指導・授業づくり」の項目に不安を感じている特学担任が一番多い結果となった。受講者の中にはこれまで通常の学級での経験が豊富な教員も多い。しかし、アンケート結果の中で多くの特学担任が不安を感じているように、自立活動や各教科等を合わせた指導等の「特別の教育課程の編成」、「個別の指導計画の作成」の理解、児童生徒の「障がいの特性の理解」等、特学担任として新たに求められる専門性は多岐にわたり、すぐには理解しにくい内容が多い。通常の学級のように、教科書に沿って行う授業ばかりでもない。そのため、「通常の学級とは授業づくりの仕方が違い、今までの経験を活かさない」「どのように授業を行ったらよいのか分からない」と感じている特学担任が多いのではないかと感じる。

記述内容からは、自立活動で何を行ったらよいのか、どのように授業を組み立てればよいのか等に困っている特学担任が多いことが読み取れる。また、実態差や学年差のある複数児童生徒が在籍する学級で授業を行わなければいけない場合があることが、特別支援学級の授業の困難さの要因の一つであることもうかがえる。

当センターでは自立活動や各教科等を合わせた指導についての資料を作成し、ホームページに載せているが、それを授業づくりに活かすことができていないのではないかな。

②特別支援学級担任3年目研修事前アンケート結果、ステップアップシートから

質問③ 「授業づくり」に関する不安や課題だと感じていることは何ですか。1つだけ選んでください。		
1 教育課程の編成	2 児童生徒の実態把握	3 学級経営、教室運営
4 児童生徒と教師のかかわり	5 単元の計画	6 保護者との連携
7 教室環境、学習環境	8 障がい特性の理解	9 個別の指導計画の作成
10 教員間の連携、理解	11 その他（ ）	
質問④ 特学担任としての、やりがいや魅力（面白み）は何ですか。（複数回答も可）		
1 教育課程の編成	2 児童生徒の実態把握	3 学級経営、教室運営
4 児童生徒と教師のかかわり	5 単元の計画	6 保護者との連携
7 教室環境、学習環境	8 障がい特性の理解	9 個別の指導計画の作成
10 教員間の連携、理解	11 その他（ ）	

図2 事前アンケート

ステップアップシートの内容	
実態把握	児童生徒の得意なこと、頑張っていること、好きなことを知っている
	困っている児童生徒を「どう支えるか」を考えている
	個別の指導計画の作成をした
授業づくり	児童生徒が「生き生きと取り組んでいたな!」と思う授業がある
	児童生徒が「持っている力」を使いたくなる授業を工夫している
	児童生徒の学習の様子や成果を必要に応じて記録している
	児童生徒の助けとなる教材・教具を工夫している
	自立活動を取り入れた授業づくりをしている
学級経営	特別支援学級だからこそできること、特別支援学級の魅力を生かした取り組みをしている
交流及び共同学習	交流及び共同学習で、児童生徒が「生き生きと取り組んでいたな!」と思う活動がある
	事前に交流学級の担任と連携、打ち合わせをしている
進路指導	「将来の豊かな暮らし」を見据えた計画の中で指導している
児童生徒との人間関係づくり	児童生徒の様子について同僚と積極的に情報交換をしている
	児童生徒同士によりよい関係を築くための工夫をしている
研修 理解教育・啓発	研修等に自主的なものも含め、積極的に参加したり、本を読んだりしている
	校内の掲示板等で、児童生徒の活躍の様子を紹介したり、理解啓発を促すような情報を発信したりしている

図3 ステップアップシートの内容

本研修は、特学担任となって3年目の教員を対象としている。事前アンケートに併せ、研修の中で今までの自分の実践を振り返る「ステップアップシート」の作成も行っている。この事前アンケートとステップアップシートから、特学担任となって少し経験を積んだ教員の状況を把握した。(令和2年度6月実施)(図4、表3)

ア. 事前アンケート『授業づくりに関する不安や課題だと感じていることは何ですか(1つ選択)』(%) (39人中)

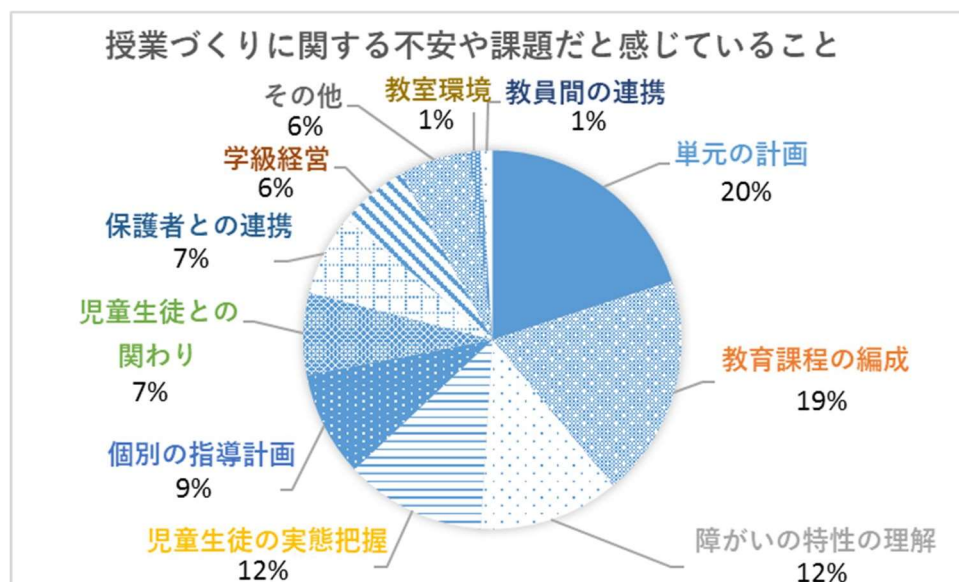


図4 授業づくりに関する不安や課題だと感じていること

イ. ステップアップシート

表3 ステップアップシート集計表

実態把握について (39人中)

・児童生徒の得意なこと、がんばっていること、好きなことを知っている	95%
・困っている児童生徒を「どう支えるか」考えている	75%
・個別の指導計画の作成をした	73%

授業づくりについて

・児童生徒が「生き生きと取り組んでいたな!」と思う授業がある	82%
・児童生徒が「持っている力」を使いたくなる授業を工夫している	45%
・児童生徒の学習の様子や成果を必要に応じて記録している	77%
・児童生徒の助けとなる教材・教具を工夫している	52%
・自立活動を取り入れた授業づくりをしている	45%

★「持っている力を使いたくなる授業」の工夫の記述から

- ・ 繰り返しの中で授業の流れが分かるようにしている
- ・ 生活単元学習の中に学校行事に向けた内容を。自分で分かって自信をもって取り組めるように
- ・ ファイルノート、視覚的なもの（時計、図書館、成長の木）等を取り入れている

児童生徒が分かって動けるための内容、計画、教材

- ・ 集中する時間とリラックスできる時間、本人のペースに合わせて（スモールステップ）
- ・ 振り返りを丁寧に～「もっとこうしたい」というアイデアへ

個々の実態に合わせた展開

- ・ 作業的な内容（本人が得意なこと）、好きなものを取り入れる（話すこと、身体を動かすこと等）
- ・ 得意な学習で本人の力を活かせるように（算数で説明）

好きなこと、得意なことを活かす

- ・ 失敗や間違いを気にしないように・課題に向かう姿を褒める
- ・ がんばっていたところ、よかったところを伝え合う
- ・ お互いで教え合う・人のお世話をするミニ先生・先生役を交代したり、子どもに勝つ経験を味わわせたり

自己肯定感や意欲につながるような工夫

- ・ 少しがんばればできる設定
- ・ 自分以外の教員への協力依頼・プレゼント、販売

研修について（39人中）

・ 研修等に自主的なものも含め、積極的に参加したり、本を読んだりしている。	41%
---------------------------------------	-----

○結果から分析する特学担任3年目の教員の状況

特学担任の経験を数年経て、児童生徒とのかかわり方や個別の指導計画の作成について理解が深まってきている。また、ステップアップシートの「児童生徒が得意なこと、がんばっていること、好きなことを知っている」「児童生徒が『生き生きと取り組んでいたな』と思える授業がある」の項目については、ほとんどの教員がYesと答えている。記述の内容からも、児童生徒のよさに視点を当て、得意なことや好きなことを取り入れたり、自己肯定感が高まるような工夫をしたりしながら授業づくりを行っている姿がうかがえる。

ただ、それに比べて「児童生徒が『持っている力を使いたくなる』授業を工夫している」の項目は半数以下である。また、授業づくりについての課題として多くの教員が「単元の計画」「教育課程の編成」の項目を挙げている。このことから、児童生徒それぞれの実態に応じて育てたい資質・能力を考え、計画的に授業づくりを行っていくことについては「十分できていない」と感じている教員が多いのではないかと考えられる。そしてその一因として、特別の教育課程についての理解の難しさがあることも予想される。特別支援教育に関する新しい情報を得ることについても、忙しい日々の中では難しいのではないか。

③研修講師振り返りアンケートや各教育事務所指導主事聞き取り等から

これまで当センターで実施した特別支援学級に関する研修での講師の振り返りアンケートや、各学校へ訪問指導を行っている県内の各教育事務所指導主事への聞き取りから、特学担任が授

業づくりの中で苦戦しているところや助言が必要であると思われるところをまとめたものが、以下の通りである。

自立活動について

- ・自立活動と生活単元学習の違いが分かりにくいと感じている担任が多い。
- ・自立活動シートは書いても、そこからどんな授業をしたらいいかが分かりにくいのではないかと感じる。
- ・活動内容については本やワークシートを参考に行っている担任が多いが、参考にできる資料が少ない。また、資料をそのまま取り入れるのではなく児童生徒の実態に合わせて変更していくことが必要だが、それは難しい様子である。
- ・特に、「心理的な安定」や「コミュニケーション」の区分の内容について、どのようなことを行ったらよいかの分かりにくい。

各教科等を合わせた指導について

- ・学習活動の内容が、どんな教科と結びついていくのかイメージできにくいのではないかと感じる。また、活動の中で児童生徒のどんな力を育てていくのか、分かりにくいと思われる。
- ・3年目研修では講師が生活単元学習の実際について話され、参考になったと思われる。

教科指導について

- ・児童生徒の実態に合わせて具体的な内容をどのように行ったらよいか、分かりにくいと感じている担任がいる。☆本を見ても、そこから具体的な学習内容にはつながりにくいようだ。
- ・複数学年にまたがって国算をやっていく難しさもある。

具体例へのニーズ

- ・授業を見合う環境があるといい。専門的な言葉で説明することと合わせてもっと具体があった方がいい。
- ・授業づくりの資料として必要なのは方法論ではなく実践の中身である。実践例から自分の学級に合うものを見つけて実践してみることができるよう、選択できるものがあるとよい。

○結果から分析する特学担任の授業づくりの状況

自立活動や各教科等を合わせた指導といった特別の教育課程については理解の難しさに併せて教科書もないため、様々な資料を参考にして授業づくりを行っている。しかし、それを児童生徒の実態に合わせることにについては難しさがあり、一人一人に付けたい力とも結びつきにくいことが考えられる。また教科指導についても、児童生徒の実態が様々で教科書通りには進められなかったり、複数学年にまたがって指導を行わなければならない場合も多かったりするなどの点から、難しさを感じている教員もいる。

具体的な授業の事例へのニーズは非常に高い。しかし、現状では参考にできる具体的資料が少ない状況である。

(2) 授業づくりの課題への対応策の検討

(1) で様々な視点から、特学担任が抱える授業づくりの課題の把握を行った。その中で、児童生徒が意欲的に取り組める授業づくりに向けて努力しながらも、難しさを感じて悩んでいる特学担任の姿、また、特学担任の努力が充実した授業づくりに必ずしもつながりにくい現状もある

ことが分かった。この要因として以下のように整理した。

①特別の教育課程の理解の難しさ

自立活動は、具体的な内容が学習指導要領には示されておらず、児童生徒の実態に合った内容を特学担任が設定しなければならない。各教科等を合わせた指導を行うにあたっては、知的障がいである児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の各教科について理解し、何をするように合わせていくか考えることが求められる。どちらも、学習指導要領を読むだけでは、大まかな理解はできても具体的な授業づくりに結び付けていくことは難しい。経験のある担任の授業を見る機会、お互いに授業を見合って協議する機会がほとんどないことから、学習指導要領の内容と実際の授業をつなげて理解することが難しい状況にあることが考えられる。授業の中で児童生徒につけたい力やねらいについても明確にできないまま、授業を行っている状況があるのではないか。

②児童生徒の実態に合った授業計画の難しさ

特別支援学級で授業づくりを行う際には、児童生徒の実態把握を丁寧に行い、それに基づいた授業を行うことが基本である。しかし、児童生徒の実態は様々であり、一人一人に合ったねらいの設定や支援、授業計画等をどのように行うかについて、専門性が求められる。実態差や学年差のある複数の児童生徒が在籍する学級ではさらに高い授業力が求められる。それにもかかわらず、授業づくりにおいて参考にできる資料や相談する場は少ない。特学担任は今の自分の力量の中で授業を行わざるを得ず、不安や課題を感じている教員が多いのではないか。

このような課題に対応するため、以下の方向で特学担任の支援に向けて検討することとした。この研究では、

特学担任が自ら情報を活用し、児童生徒の実態に合った授業づくりを行うことができる

ことを目指す。

ここでの「児童生徒の実態に合った授業」とは、「児童生徒が自分の力を発揮できる」「つけたい力（ねらい）が明確である」授業であると捉えた。

まず、特学担任が特別の教育課程についての理解を深め、授業の中で児童生徒につけたい力を明確にできるようにしたい。何のためにこの授業を行っているのか特学担任が理解して授業を行うことで、評価の視点も定まり、さらによりよい授業づくりへとつながっていくのではないか。

そして、その中で一人一人に合った支援や計画、場面設定や環境づくりを行うことで、児童生徒がそれぞれの力をしっかりと発揮できる授業づくりができるようにしたい。

そのための支援として、「授業づくりの流れやポイントが分かるような支援」「活動内容が具体的にイメージできるような支援」の2つを大きな柱として考えた。

A「授業づくりの流れやポイントが分かるような支援」

児童生徒の実態に合った授業を行うためには、特学担任の意識や思考の整理が必要である。また、様々な実態に応じ、児童生徒がそれぞれの力を発揮できる授業の計画を行うためには、専門性や「コツ」も求められる。それらを分かりやすく示すことで、特学担任が

自ら授業の計画を立てることができるようにしたい。

B「活動内容が具体的にイメージできるような支援」

実際の授業に結びつく情報としては、具体的な内容が欠かせないことが分かった。理解が難しい自立活動や知的障がい特別支援学校の各教科の内容について、すぐに参考にできる具体的な活動のヒント（以下、「具体例」）を数多く示すことで理論と実際をつなげることができるようにしたい。その具体例は、学習指導要領の内容と結びつけられるようにし、児童生徒につけたい力を担任が確認しながら授業内容を考えることができるようにする。

また、この2つの柱を往還できるようにすることで、担任が具体例を活用しながら児童生徒の実態に合わせて授業の計画を立てることができるのではないかと考え、上記の目指す姿へとつながっていくのではないかと考え、図5として表した。

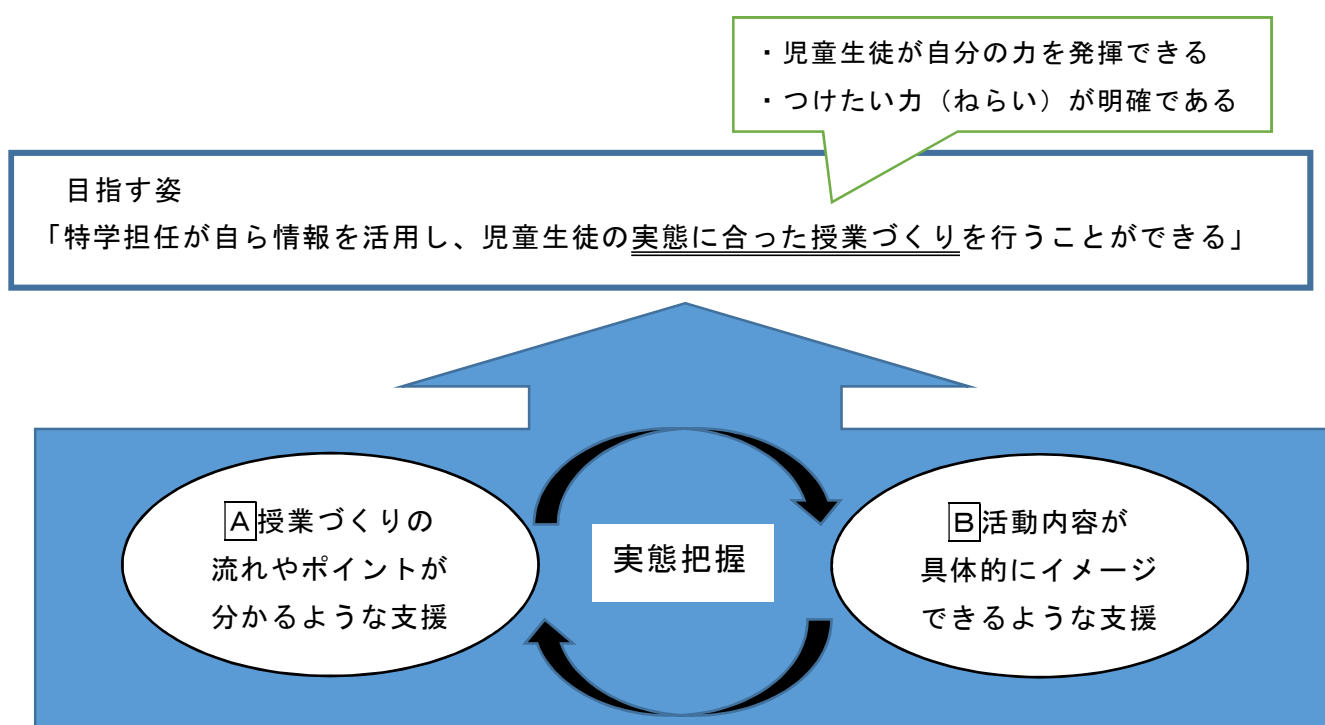


図5 研究のイメージ

そして、この支援の方向から、以下の三つの資料を作成することとした。

- ① 授業づくりシート
- ② 各教科（生、国、算・数）の段階表
- ③ 自立活動内容整理表の補助資料

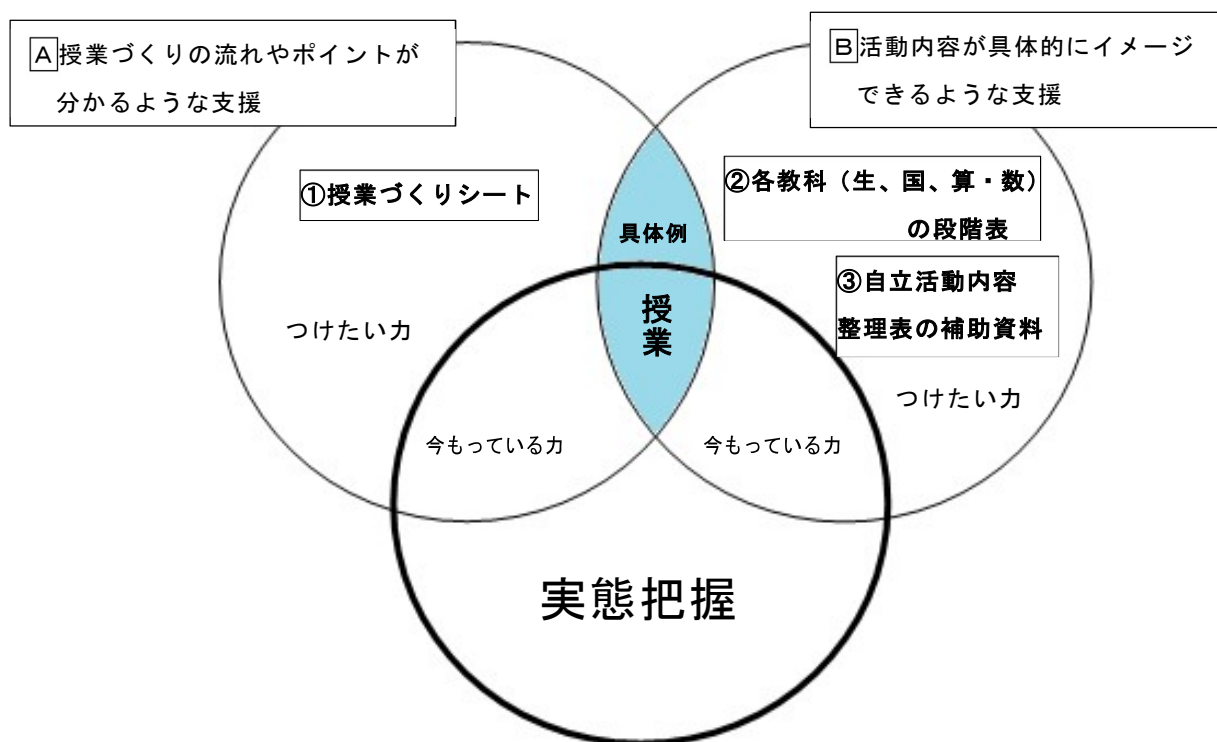


図6 作成する資料の考え方

この図6は、作成する資料の考え方についてまとめたものである。A、Bの方向性に沿って作成するが、あくまでも大事にしたいのは「児童生徒の実態に合った」授業づくりを行えることである。シートや具体例が独り歩きしないよう、学習指導要領の内容と目の前にいる児童生徒の姿を結びつけながら授業づくりが行えるような資料を目指したい。

(3) 作成した各資料について

各作成資料（①～③）については以下に詳細を記載する。

①授業づくりシート

【資料の概要】

このシートの様式は、特別支援学級の授業づくりを行うにあたって考えるべき内容を思考の流れに沿って示している。シートに沿って記入していくことで、「各教科（生、国、算・数）の段階表」「自立活動内容整理表の補助資料」等の資料を活用しつつ、特別支援学級の授業づくりにおいて大事にしたい視点を意識しながら見通しをもって授業の計画ができるようにと考えた。また、日々の児童生徒の姿を見取りながら、児童生徒の実態に沿った授業改善を積み重ねていくことができるのではないかと考えた。シートの名前は『Go! Go! 授業づくり! シート』とした。今年度はまず、各教科の授業づくりを行う際の活用をイメージして作成した。

【作成する上で大切にしたい視点】

ア 授業づくりの見通しへの分かりやすさ

忙しい日々の中で簡単に活用でき、授業づくりへの見通しが分かりやすいように、授業づく

りに必要な最低限の手続きで作成できるような流れにした。使う言葉も短く精選し、時間をかけずに読むことができるようにした。

また、シートを使いながらホームページの他の資料を活用できるように、参考にする資料へのつながりを示すこととした。

イ 手元で日々活用できるように

作成して終わりではなく、手元に置き日々の記録や改善点を書き込み、次の授業へと生かしていくことができるようにした。そのために、シートの中には毎時間のねらいやそれに基づく評価や記録が記入できる欄も設けている。さらに、今後は表紙も作成し、それぞれで印刷し、綴じて使うことができるようにしたい。

また、『単元（題材）計画編』と『本時編』の2つを作成し、ニーズに応じて活用できるようにした。

ウ 授業づくりに大事な視点を伝えられるように

目指す姿にもあるように、特別支援学級の授業づくりの中で一番大事にしたいのは「児童生徒の実態に基づく」という視点である。それを自然に意識することができるよう、シートの流れや記入のポイントの内容を工夫した。

【授業づくりシートの実際】

ア Go!Go!授業づくり！シート〈単元（題材）計画編〉

図7のように、A4、2ページ程度で表すこととした。シートの内容について各記入項目ごとに説明する。

①児童生徒の実態

教科、領域にかかわる児童生徒の実態等を記入する。特別支援学級の児童生徒の実態把握の難しさを考慮し、特別支援学校学習指導要領各教科等編や、シートに併せて作成している「各教科（生、国、算・数）の段階表」を参考にするとよいことを記入のポイントとして表記した。

また、手立てを考える際に参考にしてほしい視点についても示した。児童生徒の困難さへの支援という視点だけでなく、よさやできていることを活かしていくことが主体的な学びにつながっていくと考えたため、「支援が必要なところ」に併せて、「強み」を記入するようにした。

Go!Go! 授業づくり！シート<単元(題材)計画編>

【教科名】	【学習内容】		
【課題】			

【① 児童生徒の実態】

	A	B	C
教科・領域	★本単元の教科、領域にかかわる実態、児童生徒の強みや支援が必要となる点を記入します。 <ul style="list-style-type: none"> 個別の指導計画を基に記入しましょう。 実態把握が難しいと感じられる場合は、「特別支援学校学習指導要領 各教科等欄」、ホームページ資料「各教科の段階表（国・算・英・主）」を参考に記入しましょう。 児童生徒の強み、特に支援が必要だと感じるところについても書き、記入しましょう。 		
強み			
支援が必要となる			

【② 個々の単元(題材)のねらいと手立て】

	A	B	C
ねらい	★学習内容と実態把握を基に、「個々の単元(題材)のねらい」を記入します。 <ul style="list-style-type: none"> 単元が終わったときに必ず児童生徒の姿を書き、3つの観点で表しておきましょう。 児童生徒が持っている力を活かせるよう、少しがんばれば達成できると思われる姿で表しましょう。 		
手立て	★実態把握を基に、「手立て」を記入します。 <ul style="list-style-type: none"> ①で表した強みや活かすための手立て、特に支援が必要となるところにかかわる手立てを書き、記入しましょう。個々の手立てに併せ、集団全体で考えられる手立てについても記入しましょう。 		

【③ 主な活動内容】

★主な活動内容を記入します。 <ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の好きなこと、学校生活での体験（実行していること、行事、日々の出来事等）が書けると、意欲的に学習に取り組めるようになるかもしれません。 ①・②・③・④・⑤・⑥・⑦・⑧・⑨・⑩・⑪・⑫・⑬・⑭・⑮・⑯・⑰・⑱・⑲・⑳・㉑・㉒・㉓・㉔・㉕・㉖・㉗・㉘・㉙・㉚・㉛・㉜・㉝・㉞・㉟・㊀・㊁・㊂・㊃・㊄・㊅・㊆・㊇・㊈・㊉・㊊・㊋・㊌・㊍・㊎・㊏・㊐・㊑・㊒・㊓・㊔・㊕・㊖・㊗・㊘・㊙・㊚・㊛・㊜・㊝・㊞・㊟・㊠・㊡・㊢・㊣・㊤・㊦・㊧・㊨・㊩・㊪・㊫・㊬・㊭・㊮・㊯・㊰・㊱・㊲・㊳・㊴・㊵・㊶・㊷・㊸・㊹・㊺・㊻・㊼・㊽・㊾・㊿
--

↓

【④ 単元(題材)計画】

単元(題材)名 () 全 () 時間

月日	次	時	ねらい	主な学習活動	準備物	記録
/ /	1		児童生徒に読ませる絵本			次回への改善点
/ /	1					
/ /	1					
/ /	1					
/ /	1					
/ /	1					
/ /	1					
/ /	1					
/ /	1					
/ /	1					

★①～④それぞれ、単元の大まかな計画を立ててみましょう。

- 各次時の「ねらい」を書きながら、そのねらいに合うための「主な学習活動」を考えましょう。さらに、そこで必要なものについてイメージし、「準備物」を記入しましょう。
- 自分の強みを発揮するための計画です。記入する内容は、大まかなメモ程度のものでも構いません。
- 計画を変更したい場合、新しく活動を追加したい場合も自由に記入しましょう。
- 書き方がイメージが湧かない場合は、記入例をご覧ください。

★各次時での児童生徒の姿を詳細に記録しておきましょう。

- 児童生徒の姿、学びの姿からの気づき、指導方法や支援内容の改善点など、メモ程度でよいので記入しておきましょう。

★単元終了後に、振り返りましょう。

- 「学んでいる姿から気付いたこと」を思い浮かべてみましょう。そして、その姿に自分の手立てがどう活かされていたか（または活かされていなかったか）考えましょう。

例① 英「協力で三角形のものを造ると、3つの辺をそれぞれ「1、2、3」と言いながら作るだけだった。」

手立て：「体験を通して活動中」

例② 英「繰り返しのリズムで「8と1で10を作る」と言いながら計算することがあった」

手立て：「10のあと2が足りるから、異体物の操作等時間ゲームとして取り入れる！」

児童生徒の学んでいる姿で気付いたこと	評価
A	
B	
C	
自分の手立てについて気付いたこと	

図7 Go!Go!授業づくり！シート<単元(題材)計画編>

②個々のねらいと手立て

実態把握を基に、個々の単元のねらいと手立てを記入する欄である。ねらいは、単元で学習する内容と実態をすり合わせながら考えるよう示した。

手立ては、実態に記入した「強み」「支援が必要となるところ」から考えることができるよう、記入のポイントとして示した。

③主な活動内容

個々のねらいに迫るために、この単元でどんな活動を行うかを考え、記入する。学習内容やねらいが分かっても、どのような活動内容にしたらいいか悩む特学担任が多いことは、特学担任の現状の分析からも予想できる。また、特学担任1人では、発想を広げることにも難しさがあるだろう。そのため、参考になる資料等について記入のポイントとして示した。

④単元(題材)計画

シートの①～③を基に、単元(題材)計画を立て、記入する。記入する内容は、「ねらい」「主な学習活動」「準備物」である。毎回の授業後には、児童生徒の様子や次回への改善点を記入する欄も設け、指導と評価の一体化を図ることができるようにした。単元終了後に、児童生徒の姿と自分の支援について振り返り、気付いたことを記入する欄や評価の欄も設けた。

記入例については、記入の仕方のイメージがもてたり、授業づくりの参考になったりするように考えている。特学担任が「このシートを活用したい。」と思えるものにするために、どのような表し方がよいか検討をしている。

まずは、シートの記入の仕方について整理をおこなった。図8のように、授業づくりで、考えたことをまとめ簡条書きで記すことで、考えが整理されることを伝えたい。

また、③主な活動内容の「ひまわりの種を数えて、プレゼントする活動」が①児童生徒の実態の「人と関わることが好き」を踏まえていること、③主な活動内容の「操作をしながら考えるために位取り板を使用する」

が①児童生徒の実態の「実際に体験をしたこと、見たことをよく覚えている」ことを踏まえて考えていることが分かるように矢印で示すことも考えている。

【① 児童生徒の実態】

A	
教科 ・ 領域	・知的障がい特別支援学校小学部3段階 ・20までの数で、数詞を唱え、個数を数え数字 ・10の補数を考える時、指を使って考えること ・20までの数で数字だけで大小を比較する時、 ・10のまとまりを作って数えることを先月学習した。
強み 支援 が必要 なと ころ	・絵本、人と関わるのが好き。 ・実際に体験をしたこと、見たことをよく覚えている。 ・周囲の刺激に反応することで、教師の話に注意がむかない 活動の目的や内容が理解されていないことがあり、勝手に活動始めて終わってしまう。

児童の「強み」「支援が必要などころ」を踏まえながら、【②】【③】を考えます。

【② 個々の単元（題材）のねらいと手立て】

A	
ね ら い	・2位数は、10のまとまりと端数という考え方を理解し、2位数を読んだり書いたりする。(知・技) ・10のまとまりを意識しながら、数の数え方と表し方を考えようとする。(思判表) ・数を数えたり数字で表したりすることに関心をもち、身近なものを数えたり数字で表したりしている。(学)
手 立 て	・操作をしながら考えるために位取り板を使用する。 ・絵を使いながら端的な言葉で順序立てて話をする。

【③ 主な活動内容】

- ひまわりの種を数えて、プレゼントする活動。
- ・図書館の絵本を数える活動。
- ・ゲーム感覚で、ブロックを何個積み上げられるか。
- ・クイズ「なんこあるでしょう」を画用紙に書いて掲示して発表。

いくつかの内容の候補を考え、決定した活動内容に○をします。

図8 記入例①～③

【④ 単元（題材）計画】

単元名（ かぞえめい人になろう ～20より大きいかず～ ）全（ 5 ）時間

日時	次	時	ねらい	主な学習活動	準備物	記録 次回への改善点
9/7 (火)	1	1	児童生徒へ提示するねらい ・10のまとまりを意識しながら、ひまわりの種を数えようとしている。(学) くふうしてひまわりのたねをかぞえよう	・先生にプレゼント。 ・ひまわりの種は、何個ある？ ・簡単には？	ひまわりの種	ねらい○ 10のまとまりを思い出す。
9/8 (水)		1	・2位数の構成について理解する。(知・技) 学習活動の変更や追加を記入していきます。	・位取り板を使って、教材等のイメージを絵で書いてもよいです。 登休みに ・プレゼント(校長先生、教頭先生、図書室・保健室・事務室)	ひまわりの種 位取り板	「一のへせ」に10のまとまりを入けるOK. 残りを「一のへせ」に入けるOK. まとまりを作る箱次回準備。

図9 記入例④

また、④単元（題材）計画では、図9のように記号や文章で記入したり、学習活動の変更や追加を手書きで書き込んだりした例や、教材等のイメージを絵で記録し、考えを書き留めた例などを示すことで、特学担任が自由な考えで柔軟にシートを活用できることを伝えたい。

イ Go!Go!授業づくり!シート<本時編>

Go!Go! 授業づくり!シート(本時編)				
【教科・領域】				
【日時】 ()月()日()				
目標	A	B	C	記録
学習活動 (時間)				
導入	導入の活動から実施			
展開				
まとめ				
評価・記録				

特別支援学級において1時間の授業について計画する際、複数の児童生徒が在籍する場合でも、一人一人の実態に合わせてたねらいを設け、手立てを考える必要があることが多い。それが分かりやすいように、「本時編」(図10)では、様式の一つ上に児童生徒の本時の目標を記入する欄を設け、それに基づいて授業構成を考えることができるよ

図10 Go!Go!授業づくり!シート<本時編>

うにした。授業の構成として、おおまかに「導入」「展開」「まとめ」と示している。

また、評価に活かすことができるように、記録欄を2つ設けた。活動の流れに沿って記入する欄と授業終了後に記録する欄である。

【課題】

このシートの有効性については、2年次に協力校の特学担任による試行によって検証していく。それをもとに、忙しい日々の中で作成でき児童生徒の実態に合った授業づくりにつなげることができるシートを目指し、さらに検討を深め、改善を行っていきたい。また、より特学担任の感じている課題に添うことができ、授業づくりの参考にできるよう、特学担任の現状把握をもとに、いくつかのパターンの記入例を作成していききたい。

今回は各教科の授業を計画するためのシートとして作成したが、今後は自立活動や各教科等を合わせた指導の授業づくりについてもこのシートが活用できるのか、検討していく必要があると感じている。

②各教科(生、国、算・数)の段階表

【資料の概要】

学習指導要領には次のように記されている。

知的障害者である児童又は生徒に対する教育を行う特別支援学校において、各教科の指導に当たっては、各教科の段階に示す内容を基に、児童又は生徒の知的障がいの状態や経験等に応じて、具体的に指導内容を設定するものとする。その際、小学部は6年間、中学部は3年間、高等部は3年間を見通して計画的に指導するものとする。(「特別支援学校学習指導要領小学部・中学部学習指導要領(平成29年告示)」、「特別支援学校高等部学習指導要領(平成31年告示)」)

さらに校種間の接続については「障害のある子供たちの学びの場の柔軟な選択を踏まえ、幼稚園、小・中・高等学校の教育課程との連続性を重視」することも示されている。

実際に授業を行うにあたって、小学部・中学部のものは「各教科等編」があり、各教科の目標、段階の目標が小、中学校と同様に3つの柱でまとまっているが、

- ・ 分厚い指導要領のどこを見てよいのか、探しきれない。特に4月のあわただしい時期は多忙で読み込む時間がない。
- ・ 今日、あるいは今からの授業で何をどうしたらよいのかに悩み、じっくり読み込んでから、学習活動を計画する余裕がない。
- ・ 段階の内容を知る以前に、実態把握、この子に合った学び方は何だろうかと知ることが十分にできにくい。そのため、昨年度と同じ活動をしながら月日が過ぎていってしまうことがある。

等の現状がある。

教科別の指導や教科指導、各教科等を合わせた指導において、教科の内容をどこまで指導したらよいのか、評価したらよいのか、実態に応じてどのような学習をするのか、本当に自分の行っている授業でよいのか、児童生徒の実態に合っているのか、もっと他の学習内容への迫り方はないかと悩んでいる教員も多い。また、実際に学校へ出向き、特学担任と直接関わる機会の多い特別支援教育支援専任教員との情報交換では、とにかく「具体」が知りたいという特学担任のニーズも多い。

そこで、上記のことを踏まえ、知的障がい者である児童生徒に対する特別支援学校の各教科の目標と内容に則った授業づくりを行う際に活用できるものとして、知的障がいのある児童生徒の各教科の目標と内容の一覧表を作成した。少しでも特学担任の心の負担を減らせるもの、学習指導要領の内容に沿って具体を示し、活動を考える上でのヒントとして活用できるものを作りたいと考えた。

【作成する上で大切にしたい視点】

本研究1年次は、交流学級ではなく自学級で学ぶ機会が多いと思われる「国語」、「算数」、「数学」、また、各教科等を合わせた指導を行う場合に中心となる「生活」について作成した。

本資料を作成する上で大切にしたいのは主に次の4つの視点である。

- ア 一覧表としてまとめ、同じ学習内容は横に揃え、各段階の目標と内容を系統性も意識して見やすいもの。
- イ 育成する資質・能力の3つの柱、内容をシート毎に示し、内容に応じて探しやすくし、細部を探すのに負担感を感じないもの。
- ウ 学習内容に偏りがないように、また、学び残しがないように、学習内容の流れ、単元の内容を全体に見てから、細部が見られるもの。
- エ 実態を把握した上での具体例を示すもの。

以下各視点について、具体的な内容を示す。

視点ア、イ

小学部1段階から高等部2段階まで横並びで示すことにより、児童生徒の長期の見通しをもてるようにした(図11)。また、内容を横並びで示すことにより、例えば「算数」B図形では、具体物に注目する→色や形大きさに着目して分類する→身の回りにあるものの特徴を捉える→三角形、四角形について知る→二等辺三角形、について知る・・・と、系統性を捉えやすくし、児童生徒の実態を把握し、その目標に対して実態に合わせた学習内容を考えやすくなるようにした。また、小学部の児童のうち小学部の3段階に示す各教科又は外国語活動の内容を習得し目標を達成している者、また、中学部の生徒のうち中学部の2段階に示す各教科の内容を習得し目標を達成している者については、児童生徒が就学する学部に対応する学校段階までの小学校学習指導要領等における各教科等の目標及び内容の一部を取り入れることができるよう規定されていることから、今回は小学校の学習内容についても一覧の中で見られるようにした。

算数的な見方・考え方を補わせ、算数的活動を通して、算数的に考える態度・能力を次のとおり育成することを目標とする。									
目標	小学部			中学部			高等部		
	1段階	2段階	3段階	1段階	2段階	3段階	1段階	2段階	3段階
知識及び技能	(1)数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などに気付く理解とともに、日常の事象を数量や図形に注目して処理する技能を身に付けるようにする。			(1)数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などを理解し、事象を算理的に処理する技能を身に付けるようにする。			(1)数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などとともに、日常の事象を算理的に解釈したり、算数的に表現する技能を身に付けるようにする。		
A数量の基礎	A身の回りのものや前後、形の違いなどに注目し、対応させたり、組み合わせて考えることなどについての技能を身に付けるようにする。	A身の回りのものや前後、形の違いなどに注目し、対応させたり、組み合わせて考えることなどについての技能を身に付けるようにする。	A身の回りのものや前後、形の違いなどに注目し、対応させたり、組み合わせて考えることなどについての技能を身に付けるようにする。	A身の回りのものや前後、形の違いなどに注目し、対応させたり、組み合わせて考えることなどについての技能を身に付けるようにする。	A身の回りのものや前後、形の違いなどに注目し、対応させたり、組み合わせて考えることなどについての技能を身に付けるようにする。	A身の回りのものや前後、形の違いなどに注目し、対応させたり、組み合わせて考えることなどについての技能を身に付けるようにする。	A身の回りのものや前後、形の違いなどに注目し、対応させたり、組み合わせて考えることなどについての技能を身に付けるようにする。	A身の回りのものや前後、形の違いなどに注目し、対応させたり、組み合わせて考えることなどについての技能を身に付けるようにする。	A身の回りのものや前後、形の違いなどに注目し、対応させたり、組み合わせて考えることなどについての技能を身に付けるようにする。
A数と計算(1段階はB)	A10までの数の概念や表し方について分かり、数に對する感覚をもつとともに、ものごとの関係に関心をもつことについての技能を身に付けるようにする。	A10までの数の概念や表し方について分かり、数に對する感覚をもつとともに、ものごとの関係に関心をもつことについての技能を身に付けるようにする。	A100までの数の概念や表し方について理解し、数に對する感覚を豊かにするとともに、加減、乗除の意味について理解し、これらの簡単な計算ができるようにすることについての技能を身に付けるようにする。	A2位位程度の数の概念について理解し、数に對する感覚を豊かにするとともに、加減、乗除及び除法の意味や性質について理解し、これらの計算をすることができるようにすることについての技能を身に付けるようにする。	A算数の概念や性質について理解を深め、数に對する感覚を豊かにするとともに、加減、乗除、除法及び除法の意味や性質について理解し、これらの計算ができるようにする。また、小数及び分数の意味や表し方について知り、数量とその関係を素直に読み取ったりすることができるようにすることについての技能を身に付けるようにする。	A算数、小数、分数及び根号の意味や表し方や四則の關係について理解するとともに、整数、小数及び分数の計算についての意味や性質について理解し、それらを計算する技能を身に付けるようにする。	A算数の性質、分数のを用いた素について理解し、分数の計算について素について理解し、それらを計算する技能を身に付けるようにする。	A算数の性質、分数のを用いた素について理解し、分数の計算について素について理解し、それらを計算する技能を身に付けるようにする。	A算数の性質、分数のを用いた素について理解し、分数の計算について素について理解し、それらを計算する技能を身に付けるようにする。
B図形(1段階はC)	A身の回りのものや前後、形の違いなどに注目し、対応させたり、組み合わせて考えることなどについての技能を身に付けるようにする。	A身の回りのものや前後、形の違いなどに注目し、対応させたり、組み合わせて考えることなどについての技能を身に付けるようにする。	A身の回りのものや前後、形の違いなどに注目し、対応させたり、組み合わせて考えることなどについての技能を身に付けるようにする。	A三角形や四角形、箱の形などの基本的な図形について理解し、図形についての特徴を豊かにするとともに、図形を作図したり、構成したりすることについての技能を身に付けるようにする。	A二等辺三角形や正三角形などの基本的な図形や面積、角の大きさについて理解し、図形についての特徴を豊かにするとともに、図形を作図したり、構成したりすることについての技能を身に付けるようにする。	A図形の形や大きさが決まる要素や立体を構成する要素の位置關係、図形の台形や多角形の性質について理解し、図形を作図したり、二角形、平方四角形、ひし形、菱形の面積を求めたりすることについての技能を身に付けるようにする。	A平面図形を構成したりすることの意味や、立体の求め方について理解し、大図を作図したり、円、球、立方体、角柱、円柱を求めたりすることについての技能を身に付けるようにする。	A平面図形を構成したりすることの意味や、立体の求め方について理解し、大図を作図したり、円、球、立方体、角柱、円柱を求めたりすることについての技能を身に付けるようにする。	A平面図形を構成したりすることの意味や、立体の求め方について理解し、大図を作図したり、円、球、立方体、角柱、円柱を求めたりすることについての技能を身に付けるようにする。
C測定(1段階はD)	A身の回りにあるものの長さや面積の大きさに注目し、量の違いについての特徴を豊かにするとともに、量の大きさを比べることについての技能を身に付けるようにする。	A身の回りにあるものの長さや面積の大きさに注目し、量の違いについての特徴を豊かにするとともに、量の大きさを比べることについての技能を身に付けるようにする。	A身の回りにある長さや面積の単位と測定の意味について理解し、量の大きさに注目し、量の大きさを比べることについての技能を身に付けるようにする。	A身の回りにある長さ、面積、重さ及び時間の単位と測定の意味について理解し、量の大きさに注目し、量の大きさを比べることについての技能を身に付けるようにする。	A身の回りにある長さ、面積、重さ及び時間の単位と測定の意味について理解し、量の大きさに注目し、量の大きさを比べることについての技能を身に付けるようにする。	A身の回りにある長さ、面積、重さ及び時間の単位と測定の意味について理解し、量の大きさに注目し、量の大きさを比べることについての技能を身に付けるようにする。	A身の回りにある長さ、面積、重さ及び時間の単位と測定の意味について理解し、量の大きさに注目し、量の大きさを比べることについての技能を身に付けるようにする。	A身の回りにある長さ、面積、重さ及び時間の単位と測定の意味について理解し、量の大きさに注目し、量の大きさを比べることについての技能を身に付けるようにする。	A身の回りにある長さ、面積、重さ及び時間の単位と測定の意味について理解し、量の大きさに注目し、量の大きさを比べることについての技能を身に付けるようにする。
				A二つの数量の關係や変化の様子			A比例の關係や異なる二つの量の		

図11 小・中・高等部の算数、数学段階別学習内容一覧の一部分

視点ウ

算数と数学の資料では、「目次」のシートを作成し、学ぶ内容と、児童生徒の実態を照らし合わせながら指導内容の目標と内容を確認できるようにした（図 12）。エクセルで作成することで、項目にリンクを張り、クリックすると「詳細」のシートに移動でき、色の付いたシートで確認できるようにもなっている（図 13）。児童生徒の実態と目標と内容とを行ったり来たりしながら、指導内容を決定できる。また、エクセルのセルの色を変えることにより、既習内容なのか、未習なのか等使用者次第でいかにも活用できる。

内容	小1段階	小2段階	小3段階	中1段階	中2段階
数量の基礎	ア 具体物に気付く イ ものともとの対応				
数と計算	ア 数えることの基礎 ・ものの有無がわかる	ア 10までの数の数え方 ・ものの同等、多少がわかる	ア 100までの整数の表し方 ・具体物に気付き指を指す、つかむ、目で追う イ 整数の加法及び減法 ・1位数と1位数の加法など	ア 1000までの整数の表し方 ・3位数の表し方について理解する イ 整数の加法及び減法 ・2位数の加法及び減法など ウ 整数の乗法	ア 整数の表し方 ・4位数までの理解 ・10倍、100倍、1 イ 整数の加法及び減法 ・3位数や4位数の計算機を使って ウ 整数の乗法 ・1位数と1位数の エ 整数の除法 オ 小数の表し方 カ 分数の表し方 キ 数量の関係を表す ・□などを用いて表す
	図形	ア ものの類別や分類・整理	ア ものの分類・形 ・色や形、大きさに着目 イ ものの形 ・丸や三角、四角という ・丸や三角、四角という名称を知る縦や横の線、十字、△や□をかくなど	ア 身の回りのものの形 ・前後、左右、上下などの言葉を用いて	ア 図形 ・直線、三角形、四角形、正方形、長方形など

図 12 目次

視点エ

特別支援教育支援専任教員、各教育事務所指導主事等と情報共有する中で、「具体」が知りたいというニーズがあることに対応して、セルの右上に△のマークがあるものについては、右クリックするとコメント欄に「具体例」が示されるようにした（図 13）。例の中には特別支援学級担任スキルアップ研修 2 年次に課題としている「課題研究」の中の実践も取りあげ、身近な先輩の実践も参考にできるようになっている。あくまでも児童生徒の実態把握、おおよその習得状況の参考、学習指導例として活用できればと思う。このコメント欄は、自分でもメモをしたり、活動記録として残したりするシートとしても活用できる。学級に複数いる場合は、それぞれのシートを一人一人に作成し、活用することも可能である。少しでもこれなら「やってみたい」「子どもたちはこんな姿を見せるのではないかと想像しながら授業を楽しみに、工夫していく特学担任が増えることを願っている。



図 13 移動先の詳細シート

【課題】

今後の課題としては、教科別の指導と、各教科等を合わせた指導の中で目標とする場合の具体例が分かりにくいところがあるので、内容の充実と共に改善していきたい。また、特に中学校では特学担任以外が教科指導をすることも多いと思われるため、特学担任だけではなく、誰が見てもわかるシートの作成とその周知の仕方も工夫していきたい。

作成する中でスタッフ同士の情報共有、実践紹介を兼ね、例えば研修等で悩みを語る受講者に対してヒントが示せるようにしていき、自分達自身の専門性の向上を図っていきたい。

③自立活動の内容整理表の補助資料

【資料の概要】

令和元年度～2年度に行った当セクションの研究の一環として「自立活動の内容整理表」を作成した。平成30年に改訂された特別支援学校教育要領・学習指導要領解説「自立活動編」第6章（自立活動の内容）をより見やすく、実際に活用しやすいように考えたものである。項目ごとにに関する内容の理解や、障がい等の例示による具体的な児童生徒の姿がイメージしやすくなり、担当する児童生徒に関する情報収集や課題の選定がしやすくなると考え作成したものである。

当センター主催の研修等においても紹介、活用する中で、「整理されており活用しやすい」という評価を得ている資料である。

しかし一方で、自立活動に対して

- ・自立活動の内容について、どんなことをすればいいのか悩む。
- ・自立活動のイメージがもてず、生活単元学習に近い授業になっている。
- ・心理的な安定やコミュニケーションの内容が難しい。

といった声も聞かれる。（これまでの研修における受講者や講師のアンケート、各教育事務所指導主事聞き取り等から）

そこで本研究では、「活用しやすい」と今まさに手に取って活用されている資料に、具体的に授業の中でどのような支援をするとよいのかを追記することで、実際の授業の中での活動をさらにイメージしやすくする資料を作りたいと考えた。あくまでも参考にすべき内容のものであり、実際には目の前の児童生徒の姿を捉えようとするのが大切であることを強調し、内容整理表の項目のすべてではなく、いくつかについて具体例を示すものにした。

【作成する上で大切にしたい視点】

自立活動は児童生徒の的確な実態把握のもと、個別の指導計画を作成し、内容（6区分27項目）の中から必要とする項目を選定したうえで、それらを相互に関連付けて設定する完全なオーダーメイドである。そこで、特学担任自身がその子の実態に合わせていくつかの項目を選び、それを合わせたものを考えながら活用してもらいたいと考えた。どんな題材・場面づくりをするかを示したり、教科の中で、どの部分を自立活動の視点で行うかを示したりする工夫をしている。

ア 示し方の工夫

既にある「自立活動の内容整理表」を活用し、ページ数を増やしてそれぞれの項目に合わせて具体例を掲載するものとした。図 14 に示したように見開きの隣ページに示すことで、実態を把握してから（左ページ）活動をイメージしやすく（右ページ）している。

内容整理表

具体例

2 心理的な安定(2)			2 心理的な安定(2)			
観点	自分の気持ちや情緒をコントロールして変化する状況に適切に対応するとともに、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服する意欲の向上を図り、自己のよさに気付く。		観点	自分の気持ちや情緒をコントロールして変化する状況に適切に対応するとともに、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服する意欲の向上を図り、自己のよさに気付く。		
①項目	(2) 状況の理解と変化への対応に関すること。		①項目	(2) 状況の理解と変化への対応に関すること。		
意味	場所や場面の状況を理解して心理的抵抗を軽減したり、変化する状況を理解して適切に対応したりするなど、行動の仕方を身に付けることを意味している。		意味	場所や場面の状況を理解して心理的抵抗を軽減したり、変化する状況を理解して適切に対応したりするなど、行動の仕方を身に付けることを意味している。		
障がい等	状況	指導演容や留意点	②他の項目との関連	考えられる活動／目的／配慮のポイント 等		
視覚障害	○見えなかつたり、見えにくかつたりして周囲の状況を把握することが難しい場合 ○見えなかつたり、見えにくかつたりして周囲の状況を把握することが難しいため、初めての環境に対して不安になる場合	○教員と一緒に移動しながら徐々に慣れるよう指導することが必要である。 ○日ごろから一定の場所に置かれていたり、移動する可能性の少ないものを目標として行動したり、自ら必要な情報を得るために身近な人に対して的確な援助を依頼したりする方などを身に付けることが大切である。	○周囲の状況を理解し、状況の変化に適切に対応していくためには、この項目の内容（「3 人間関係の形成」「4 環境の把握」）等の区分に示されている項目の中から必要な項目を適宜し、それらを相互に関連付けながら具体的な指導内容を設定することが大切である。	○学校内でも教職員にその子の状況を伝え、事前知らせをいただきたいと思います（急な変更をしなければならぬ場合は物に忘れず）等を伝え、協力してもらう。 ○見えなかつたり、見えにくかつたりして周囲の状況を把握することが難しいため、初めての環境に対して不安になる場合 環境タイム 周囲の状況を把握するために 開始時刻までにゆびをもち活動場所に移動し、周囲の状況を確認する時間をとりましょう。 配慮のポイント ○事前活動場所の状況を説明してあり、実際の場所ではそれと結びつけて確認できるようにするとイメージしやすくなります。 ○聴覚や聴覚以外の感覚以外の感覚を十分に、実際に歩いてみて、触れるものは触ってみて確認すると伝えやすくなります。 ○活動時間や種目とは活動するのかわりなど、安心感をもたせ、活動しやすくします。 ○全校で校内環境を整備を共通理解し、徹底できるようにしましょう。 ○聴覚や聴覚以外の感覚以外の感覚を十分に、実際に歩いてみて、触れるものは触ってみて確認すると伝えやすくなります。 応用 ○見えにくいときには周囲に尋ねられるような雰囲気づくり、周囲への理解を広め、児童生徒自身が解決できるような意地を作りましょう。 ○事前に模型や触地図などを工夫して、聴覚や聴覚など視覚以外の感覚を十分に活用できるように工夫することもできます。		
	○見えなかつたり、見えにくかつたりして周囲の状況を把握することが難しい場合 ○見えなかつたり、見えにくかつたりして周囲の状況を把握することが難しいため、初めての環境に対して不安になる場合	○本人一人の見え方やそれに起因する困難を踏まえた上で、周囲がどのような状況を教員が言葉で説明したり、あらかじめ幼児児童生徒とその場に移動して一緒に確かめたりすることにより、情緒的な不安を軽減するようにする。その上で、幼児児童生徒が周囲の見え方、聴覚などの保持する感覚を説明したりして状況を把握することや、周囲の状況やその変化について教員や友達に尋ねて情報を得るようすることなどを指導することが大切である。		○周囲の状況を理解し、状況の変化に適切に対応していくためには、この項目の内容（「3 人間関係の形成」「4 環境の把握」）等の区分に示されている項目の中から必要な項目を適宜し、それらを相互に関連付けながら具体的な指導内容を設定することが大切である。	○特定の場所や状況等において緊張が高まることなどにより、家園などではほとんど支障なく会話ができるものの、特定の場所や状況では会話ができないことがある場合 コミュニケーションを促しましょう！ 他者とのやりとりができる場面に経験を促すために 高学年や前学年と一緒に行うことで、人と人の会話を楽しみながら会話をする中で、人と人の会話を楽しむという意欲が育ちやすくなるようにしましょう。 指導要領 ○スムーズで止まったマスの指示（コミュニケーションの内容など）に従って、楽しみながら会話します。 ◆マスの指示の例 ・今日の天気 ・今日の気分 ・授業の人の名前 ・好きな食べ物（理由） ・しりとり10回 ・好きな動物（理由） ・隣の人の名前を3回以上 ・好きな遊び（説明） ・左隣の人の名前を2回以上 ・今日来たみなぐにゅ ・すぐそばの窓にある緑の場所で行いたいという理由2つ（理由） ○自分の得意以外の、友達を話しながら言葉遊びしたり、表現や動作でリアクションをとり取りでできるようにしましょう。 ○一方通行のコースではなく、いくつかの道があり、好きな方向に進むことができます。 ○ゴールはなく、時間設定を行います。 配慮のポイント ○マスの指示に従って会話することを目標しますが、うまくできない場合も指図したり、修正したりせず、明るく共感の雰囲気の中で活動できるようにしましょう。 ○声に出さなくても、まず安心してその場にいることから始めましょう。筆談やタブレットなど本人に合ったコミュニケーション手段が選べるようにしてね。 ○十分に声を出すことを楽しめる雰囲気を作りましょう。	
	○特定の場所や状況等において緊張が高まることなどにより、家園などではほとんど支障なく会話ができるものの、特定の場所や状況では会話ができないことがある場合	○本人は話したくても話せない状態であることを理解し、本人が安心して参加できる集団構成や活動内容等の工夫をしたり、対話的な学習を進める際には、選択肢の提示や筆談など様々な学習方法を認めたりするなどして、情緒的な不安を軽減しながら、他者とのやりとりができる場面を増やしていくことが大切である。			○周囲の状況を理解し、状況の変化に適切に対応していくためには、この項目の内容（「3 人間関係の形成」「4 環境の把握」）等の区分に示されている項目の中から必要な項目を適宜し、それらを相互に関連付けながら具体的な指導内容を設定することが大切である。	○特定の場所や状況等において緊張が高まることなどにより、家園などではほとんど支障なく会話ができるものの、特定の場所や状況では会話ができないことがある場合 ○○のスケジュールを確認しよう スケジュールカードの活用 環境をもつために 事前に予定表やスケジュールを確認し、見直しをもちながら当日を迎えられるようにしておきましょう。 配慮のポイント ○イラストなどで、何をするのか、自分が参加できそうなことは何かを確認しておくことで、子どもの思いが明確になります。 ○その確認した資料を毎日常に机や壁などに貼って確認できるようにしておきます。 ○いろいろな場面を想定して、「こんなとどうする」と一緒に考えておくといふことで、考えすぎて子どもが不安にならないよう、安心できる程度で考えましょう。 ○下見をしておくことも安心につながります。（特に通園訓練など） 指導要領 ○子どもによっては、書き込み式にして自分で記入しながら確認していくことも考えられます。 ○子どもに合わせて、提示方法を一通りの流れをまとめたたり、一つ一つの活動に分けて提示しやすくなるようにしましょう。
○特定の場所や状況等において緊張が高まることなどにより、家園などではほとんど支障なく会話ができるものの、特定の場所や状況では会話ができないことがある場合	○本人は話したくても話せない状態であることを理解し、本人が安心して参加できる集団構成や活動内容等の工夫をしたり、対話的な学習を進める際には、選択肢の提示や筆談など様々な学習方法を認めたりするなどして、情緒的な不安を軽減しながら、他者とのやりとりができる場面を増やしていくことが大切である。	○周囲の状況を理解し、状況の変化に適切に対応していくためには、この項目の内容（「3 人間関係の形成」「4 環境の把握」）等の区分に示されている項目の中から必要な項目を適宜し、それらを相互に関連付けながら具体的な指導内容を設定することが大切である。	○特定の場所や状況等において緊張が高まることなどにより、家園などではほとんど支障なく会話ができるものの、特定の場所や状況では会話ができないことがある場合 ○○のスケジュールを確認しよう スケジュールカードの活用 環境をもつために 事前に予定表やスケジュールを確認し、見直しをもちながら当日を迎えられるようにしておきましょう。 配慮のポイント ○イラストなどで、何をするのか、自分が参加できそうなことは何かを確認しておくことで、子どもの思いが明確になります。 ○その確認した資料を毎日常に机や壁などに貼って確認できるようにしておきます。 ○いろいろな場面を想定して、「こんなとどうする」と一緒に考えておくといふことで、考えすぎて子どもが不安にならないよう、安心できる程度で考えましょう。 ○下見をしておくことも安心につながります。（特に通園訓練など） 指導要領 ○子どもによっては、書き込み式にして自分で記入しながら確認していくことも考えられます。 ○子どもに合わせて、提示方法を一通りの流れをまとめたたり、一つ一つの活動に分けて提示しやすくなるようにしましょう。			
○特定の場所や状況等において緊張が高まることなどにより、家園などではほとんど支障なく会話ができるものの、特定の場所や状況では会話ができないことがある場合	○本人は話したくても話せない状態であることを理解し、本人が安心して参加できる集団構成や活動内容等の工夫をしたり、対話的な学習を進める際には、選択肢の提示や筆談など様々な学習方法を認めたりするなどして、情緒的な不安を軽減しながら、他者とのやりとりができる場面を増やしていくことが大切である。		○周囲の状況を理解し、状況の変化に適切に対応していくためには、この項目の内容（「3 人間関係の形成」「4 環境の把握」）等の区分に示されている項目の中から必要な項目を適宜し、それらを相互に関連付けながら具体的な指導内容を設定することが大切である。	○特定の場所や状況等において緊張が高まることなどにより、家園などではほとんど支障なく会話ができるものの、特定の場所や状況では会話ができないことがある場合 ○○のスケジュールを確認しよう スケジュールカードの活用 環境をもつために 事前に予定表やスケジュールを確認し、見直しをもちながら当日を迎えられるようにしておきましょう。 配慮のポイント ○イラストなどで、何をするのか、自分が参加できそうなことは何かを確認しておくことで、子どもの思いが明確になります。 ○その確認した資料を毎日常に机や壁などに貼って確認できるようにしておきます。 ○いろいろな場面を想定して、「こんなとどうする」と一緒に考えておくといふことで、考えすぎて子どもが不安にならないよう、安心できる程度で考えましょう。 ○下見をしておくことも安心につながります。（特に通園訓練など） 指導要領 ○子どもによっては、書き込み式にして自分で記入しながら確認していくことも考えられます。 ○子どもに合わせて、提示方法を一通りの流れをまとめたたり、一つ一つの活動に分けて提示しやすくなるようにしましょう。		
○特定の場所や状況等において緊張が高まることなどにより、家園などではほとんど支障なく会話ができるものの、特定の場所や状況では会話ができないことがある場合	○本人は話したくても話せない状態であることを理解し、本人が安心して参加できる集団構成や活動内容等の工夫をしたり、対話的な学習を進める際には、選択肢の提示や筆談など様々な学習方法を認めたりするなどして、情緒的な不安を軽減しながら、他者とのやりとりができる場面を増やしていくことが大切である。			○周囲の状況を理解し、状況の変化に適切に対応していくためには、この項目の内容（「3 人間関係の形成」「4 環境の把握」）等の区分に示されている項目の中から必要な項目を適宜し、それらを相互に関連付けながら具体的な指導内容を設定することが大切である。	○特定の場所や状況等において緊張が高まることなどにより、家園などではほとんど支障なく会話ができるものの、特定の場所や状況では会話ができないことがある場合 ○○のスケジュールを確認しよう スケジュールカードの活用 環境をもつために 事前に予定表やスケジュールを確認し、見直しをもちながら当日を迎えられるようにしておきましょう。 配慮のポイント ○イラストなどで、何をするのか、自分が参加できそうなことは何かを確認しておくことで、子どもの思いが明確になります。 ○その確認した資料を毎日常に机や壁などに貼って確認できるようにしておきます。 ○いろいろな場面を想定して、「こんなとどうする」と一緒に考えておくといふことで、考えすぎて子どもが不安にならないよう、安心できる程度で考えましょう。 ○下見をしておくことも安心につながります。（特に通園訓練など） 指導要領 ○子どもによっては、書き込み式にして自分で記入しながら確認していくことも考えられます。 ○子どもに合わせて、提示方法を一通りの流れをまとめたたり、一つ一つの活動に分けて提示しやすくなるようにしましょう。	
○特定の場所や状況等において緊張が高まることなどにより、家園などではほとんど支障なく会話ができるものの、特定の場所や状況では会話ができないことがある場合	○本人は話したくても話せない状態であることを理解し、本人が安心して参加できる集団構成や活動内容等の工夫をしたり、対話的な学習を進める際には、選択肢の提示や筆談など様々な学習方法を認めたりするなどして、情緒的な不安を軽減しながら、他者とのやりとりができる場面を増やしていくことが大切である。	○周囲の状況を理解し、状況の変化に適切に対応していくためには、この項目の内容（「3 人間関係の形成」「4 環境の把握」）等の区分に示されている項目の中から必要な項目を適宜し、それらを相互に関連付けながら具体的な指導内容を設定することが大切である。			○特定の場所や状況等において緊張が高まることなどにより、家園などではほとんど支障なく会話ができるものの、特定の場所や状況では会話ができないことがある場合 ○○のスケジュールを確認しよう スケジュールカードの活用 環境をもつために 事前に予定表やスケジュールを確認し、見直しをもちながら当日を迎えられるようにしておきましょう。 配慮のポイント ○イラストなどで、何をするのか、自分が参加できそうなことは何かを確認しておくことで、子どもの思いが明確になります。 ○その確認した資料を毎日常に机や壁などに貼って確認できるようにしておきます。 ○いろいろな場面を想定して、「こんなとどうする」と一緒に考えておくといふことで、考えすぎて子どもが不安にならないよう、安心できる程度で考えましょう。 ○下見をしておくことも安心につながります。（特に通園訓練など） 指導要領 ○子どもによっては、書き込み式にして自分で記入しながら確認していくことも考えられます。 ○子どもに合わせて、提示方法を一通りの流れをまとめたたり、一つ一つの活動に分けて提示しやすくなるようにしましょう。	

図 14 内容整理表の補助資料

イ 実態に応じた指導が大切であり、活動が先行していきないうにする工夫

先にも述べた通り、特学担任自身がその子の実態に合わせて活動につなげていけるよう、図 15 のように「考えられる活動／目的／配慮のポイント」として示し、常に児童生徒の実態に応じて考えてもらうことを意識した。そのため、単に「具体例」の紹介とにならないように心がけた。

3 人間関係の形成(1)					
観点	自他の理解を深め、対人関係を円滑にし、集団参加の基盤を培う。				
①項目	(1)他者とのかかわりの基礎に関すること。				
意味	人に対する基本的な信頼感をもち、他者からの働き掛けを受け止め、それに応ずることができている。				
障がい等	②具体的な指導内容と留意点/③他の項目との関連例				
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>状況</th> <th>指導内容や留意点</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○人に対する認識がまだ十分に育っておらず、他者からの働き掛けに反応が乏しい場合</td> <td>○抱いて揺さぶるなど幼児児童生徒が好むかかわりを繰り返し行って、かかわる者の存在に気付くことができるようにすることが必要である。 ○身近な人と親密な関係を築き、その人との信頼関係を基盤としながら、周囲の人とのやりとりを広げていくようにすることが大切である。</td> </tr> </tbody> </table>	状況	指導内容や留意点	○人に対する認識がまだ十分に育っておらず、他者からの働き掛けに反応が乏しい場合	○抱いて揺さぶるなど幼児児童生徒が好むかかわりを繰り返し行って、かかわる者の存在に気付くことができるようにすることが必要である。 ○身近な人と親密な関係を築き、その人との信頼関係を基盤としながら、周囲の人とのやりとりを広げていくようにすることが大切である。
状況	指導内容や留意点				
○人に対する認識がまだ十分に育っておらず、他者からの働き掛けに反応が乏しい場合	○抱いて揺さぶるなど幼児児童生徒が好むかかわりを繰り返し行って、かかわる者の存在に気付くことができるようにすることが必要である。 ○身近な人と親密な関係を築き、その人との信頼関係を基盤としながら、周囲の人とのやりとりを広げていくようにすることが大切である。				
重度障害					

3 人間関係の形成(1)	
観点	自他の理解を深め、対人関係を円滑にし、集団参加の基盤を培う。
①項目	(1)他者とのかかわりの基礎に関すること。
意味	人に対する基本的な信頼感をもち、他者からの働き掛けを受け止め、それに応ずることができている。
考えられる活動/目的/配慮のポイント 等	
◎他者からの働き掛けに反応が乏しい場合	
遊びあって楽しいな 他者の働き掛けを受け止めて答えるために 働き掛けを本人が期待できるものにし、人と一緒に遊ぶことの楽しさを味わえるようにしましょう。	
活動内容 ○室内用シーソー(バランスボール)を教師が揺らします。 ○1回終わると、もう1回するかどうかを教師が聞き、それに対して反応を返すということを繰り返します。	
配慮のポイント ○子どもの意識が教師に向いているかを確かめながら働きかけましょう。 ○楽しめる活動を通して、人に向かって声を出すことができるように促していきます。	

図 15 内容整理表(左)と考えられる活動等(右)

ウ 本人が主体的に取り組める工夫

障がいによる学習上または生活上の困難を改善・克服するための指導が自立活動であるが、本人の願い、思いを汲み取り、障がいの改善・克服のために、本人にとって取り組みやすい内容や自己理解に結びつく内容になるよう、次のような題材、場面づくりのヒントを示した。

- ・ 必然的に取り組みたくなるもの
- ・ 楽しみながらできるもの
- ・ 誰かと一緒にできるもの
- ・ 本人が「できた」と実感できるもの
- ・ 自分から周囲に依頼したり、環境を整えたりしたくなるもの

これをもとに、本人が好きなことや得意なことに応用したり、自分なりのやり方、方法が分かることへつなげたりできるとよいと考える。

エ 教科の中での自立活動の視点を示す工夫

自立活動は、特設された自立活動の時間のみならず、教科とも密接に関連する他、全教育活動を通して行われる。それを踏まえ、日常の様々な場面を想定して考えられる活動を示した。スタッフで、経験等を踏まえ案を出し合うことで、実際に実践済みで有効であったものを中心に様々掲載した。

オ 障がい名で児童生徒を理解、判断せず、指導内容を決定していけるように

「自立活動の内容整理表」は、学習指導要領をまとめたものであり、障がいごとに項目が分かれている。しかし補助資料としてはそれをなくし、図 16 のように「他者からの反応が乏しい場合」「自分や他者の気持ちを感じることが難しい場合」といった「児童生徒の状態」から具体的な内容がイメージできるようにした。児童生徒の実態把握をしっかりしていくことが大切であるというメッセージも込めている。

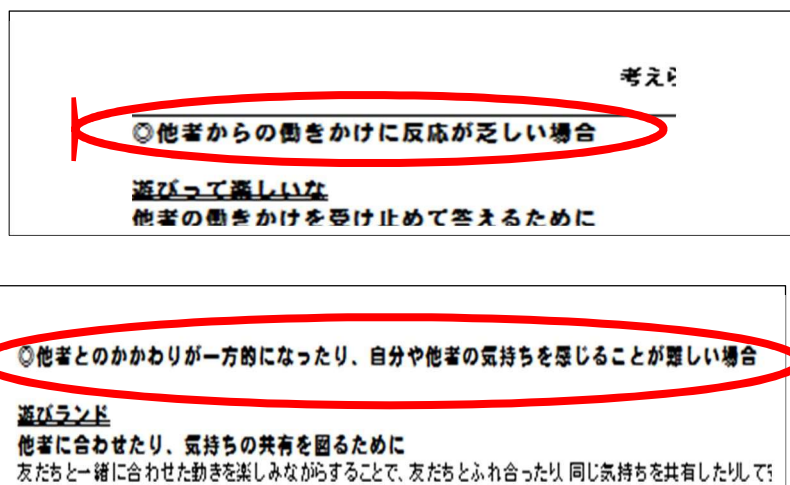


図 16 「児童生徒の状態」で表記

【課題】

今年度は内容整理表の項目の中から、項目を絞って作成を進めた。小中学校の例はもちろん、発達段階、生活年齢に応じた具体例を増やし、より活動をイメージしやすくする工夫を継続していく。この度の学習指導要領の改訂により、小、中、高等学校の総則の中に障がいのある児童生徒への指導の充実が書き込まれた。それらも参考にしながら、特学担任だけではなく、児童生徒に関わる全ての教職員にとっても参考になるように充実していく必要があると考える。

6 成果と今後の方向性

(1) 1年次の取組を終えての成果と課題

特学担任が日々どのようなことに悩み、特学担任として授業をすることにどのような魅力を感じながら過ごしておられるのかを改めて実感する機会となった。また、特学担任として、児童生徒一人一人にとって分かりやすく、達成感を得られるような授業を実践していくためには、どのようにしたらよいかを真摯に考え、悩みながら授業実践をしておられることも推測できた。そこから授業づくりにおけるセンターとしての働きかけや何を示していくかについて検討し、資料作成に取りかかれたことは成果であったと考える。

今後は、作成した資料の評価等を通じて更なる内容の充実や進化を図ることが求められていると考える。以下に、1年次段階での成果と今後の方向性について示す。

【成果】

当初、経験年数に関係なく、県内全ての特学担任にアンケートをとり、ニーズを把握したいと考えていた。しかし、1年次はそこに至ることができなかった。代わりに、学校訪問する機会の多い各教育事務所と情報共有し、特学担任の課題等を共有したり、スタッフの経験等をもとにしたりして、ニーズの把握や本研究を進めていく意義を再確認し、資料の土台を作成することができた。

資料作成においては、我々自身が学習指導要領をもとに、自身の過去の実践を振り返りまと

めていくことで、授業づくりに大切な視点、実態把握の大切さを再確認できた。

【今後の方向性】

「具体を知りたい」というニーズに応えるために作成資料について検討してきた。しかし、具体があることで、かえって児童生徒の実態とはかけ離れた授業が行われないような工夫が必要である。

児童生徒の実態から、授業を構想していく授業づくりシートについても、単に機械的に「作らなければならない」義務的なシートとなってしまうのも同様である。

作成資料を活用するにあたっては、児童生徒の実態を把握した上で、その実態に合った主体性を失わせない授業を展開することがいかに大切かを示し、あくまでも具体「例」であることを踏まえて伝えていく方法を考えていかなければならない。

(2) 2年次の取組に向けて

① 1年次の内容の検証と改善

1年次に引き続き、資料の充実を図り、完成をめざす。並行して取組に対する検証とまとめを行う。協力校を設定し、実際に資料や授業づくりシート等を活用する中で出てきた、活用しにくさ、さらに知りたいこと等の課題について検討を重ねながら、資料の充実を図っていく。併せて、その資料を活用する特学担任の校内事情や多忙感にも配慮し、より活用しやすく、日々の授業改善にもつながるものにしたい。教員の心の余裕は児童生徒へと返っていく。児童生徒がいきいきと授業に取り組む姿をイメージしながら、特学担任自身も授業に充実感を実感できるような資料としたい。また、作成した資料を相互に関連させることも意識したい。

② 授業づくりについて校内で複数で相談しながら計画できる環境づくりの検討

特別支援学級を担当した経験のない教員、授業を担当したことがない教員など校内には多数の教員がいる。しかし経験の有無とは関係なく、学校に在籍する児童生徒に関わる教員として、授業づくりについて語り合える場があるなど、校内の環境整備が欠かせない。

しかし、日々の限られた時間の中でそういった場を設定していくには工夫が必要である。今回の授業づくりシートや段階表などが、校内で気軽に特別支援学級児童生徒について情報共有を図ったり、授業について語り合ったりすることができるようなきっかけとなるとよい。そして、そのことが、授業について話し合える環境づくりにつながっていくよう、協力校と定期的に連携をとりながら必要な要素を明らかにしていく。

③ ホームページ等で情報発信を

協力校と連携のもと、改善、充実させ作成した資料は、全ての教職員がそれぞれの立場で活用できるよう、ホームページ等に掲載する作業を進める。オンラインによる研修が増える中、特学担任同士の意見交流、実践紹介の時間もとりにくい状況が今後も続くことが予想される。その中、具体的な実践の情報を提供する資料の1つとして活用したり、ダウンロードし、編集したりしながら活用できるツールとなるよう完成をめざしていく。

7 おわりに

今年度からの2年間の研究として、特学担任が特別支援学級の魅力をいかに感じ、授業の拡がりに充実感を覚え、児童生徒理解を深めることができるか、それを支えるためにはどうしたらよいかについて、分析、検討、資料作成をしてきた。1年次は、研究の方向性を決め、作成資料を検討するにとどまった。今後は特学担任の視点に立った「すぐに使いたくなる」資料の作成を進め、協力校から評価をいただきながら、さらに検証・改善を図っていく必要があると考えている。

本研究によって、特学担任はもちろん、校内で児童生徒に係わる全ての教職員にも周知されることを願い、2年次に向けて引き続き研究を進めていく。

なお、この研究は教育相談スタッフ特別支援教育セクション共同研究として行い、蘆田美江子、景山佳奈子、出来山大介、土井史、吉田卓矢が執筆にあたった。

【引用文献】

・文部科学省

『小学校学習指導要領』平成29年

『中学校学習指導要領』平成29年

『高等学校学習指導要領』平成29年

『特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領』平成29年

『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則等編（幼稚部・小学部・中学部）』平成30年

『特別支援学校学習指導要領解説各教科等編（小学部・中学部）』平成30年

『特別支援学校高等部学習指導要領』平成31年

【参考文献】

・宮崎県総合教育センター「知的障がい者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の各教科（段階表）」平成30年4月

・山形県総合教育センター「知的障がいのある児童生徒の各教科等の目標・内容一覧表」

令和3年3月

・文部科学省『さんすう☆さんすう☆☆さんすう☆☆☆教科書解説』令和2年